

松下幸之助記念財団 研究助成
研究報告

(MS Word データ送信)

【氏名】伊東 かおり

【所属】九州大学大学院

【研究題目】列国議会同盟と帝国日本の議員外交

【研究の目的】

本研究は「議会政治」という枠組みを通して帝国日本のグローバリズムについて検討し、とくに20世紀前半における国会議員の国際交流が、世界的課題とされた軍縮、人種平等、植民地縮減、女性参政等に政策に対する日本の方針に、どのような影響を与えたかという点を明らかにするのが目的である。

日本の議員外交は100年近くの歴史を有し、こうした交流からの相互理解を踏まえた政策も立案されてきた。だが、国際政治および日本政治外交史研究において議員外交はまったく注目されていない。本研究はこれらの研究分野に新しい視角を提供し、議員外交の歴史的重要性を初めて提唱する画期的研究である。また、研究の中核となる IPU アーカイヴズ（在ジュネーヴ）、及び衆議院事務局国際部の未公開資料の存在は、世界的に見ても研究者の間でほとんど知られておらず、これらの文書群の全容を解明する点でも学術的意義は高い。これらの資料を突き合わせることにより、日本の戦前における国際交流のひとつの形態とその政治史的意味を把握する。

【研究の内容・方法】

本研究は以下の方法で行った。

(1) ジュネーヴの IPU アーカイヴズの調査

IPU の総会、執行委員会の関係文書ほか事務局と日本の議員・議会事務局との往復書簡類を調査し、帝国議会と IPU の公式なやり取りのほか、議員個人と IPU との通信、また国際聯盟やカーネギー財団の日本人関係者と IPU との繋がりについて理解できた。

(2) エストゥールネル・コンスタン文書（フランス・サルト県公文書館）の調査

20 世紀初頭の IPU の中心的存在であった国際平和主義者エストゥールネル・コンスタンの個人文書を調査し、IPU とエストゥールネルの関係の詳細のほか、これまで知られていなかった日本の政治家や国際平和主義者とエストゥールネルの関係についても把握することができた。

(3) 衆議院事務局国際部文書の調査

申請者は奈良岡聰智（同大・日本政治外交史）を代表とする研究グループとともに、衆参両議会事務局が所蔵する膨大な未公開資料の整理・分析国際部が所蔵する戦前期の IPU 関係資料を調査してきたが、これを継続して行い、日本・IPU 両事務局の遣り取りや年拠金拠出、評議員会の運営等の流れを追うことができた。

(4) IPU と関係した議員の個人文書、関係資料を収集

IPU に関係した議員、議会関係者のうち田中館愛橘関係文書（岩手県二戸市シビックセンター蔵）の調査を行い、田中館の生涯と IPU との関わりについて理解を行った。このほか、東京をはじめ長崎県、静岡県などで議員や議会官僚の個人文書や関連史料の調査を行った。

(5) 1910 年代から 20 年代にかけて IPU と帝国議会を仲介する活動を行っていた国際主義者・宮岡恒次郎の関係文書を調査し（埼玉県川越市）、子孫に聞き取り調査を行った。これにより、従来知られていなかった宮岡という人物について、パーソナリティや人脈を掘り下げることができ、IPU に関わった背景をより深く知ることができた。

【結論・考察】（４００字程度）

本研究では、IPU と帝国議会の関係の基礎部分、すなわち日本議員団がどのように運営され、議員を IPU に派遣し、派遣された議員は IPU でどのような活動を行っていたかを解明した。まず、IPU アーカイヴズと衆議院国際部の資料から、日本議員団の運営体制や議会事務局の関わり、年釀金（分担金）の支払いなどを明らかにし、第一次大戦を境に日本議員団の組織体制が常に議員を派遣できる体制にシフトしていくことを把握した。また、田中館愛橘や中村嘉寿、鈴木力、井上匡四郎、岡田忠彦、河井彌八ら IPU に参列した議員や議会官僚の個人史料から、特に田中館や中村が IPU 総会だけでなく執行委員会などにも何度も参加し、IPU 外交の中心を担ったことがわかった。また IPU に一度しか参加していない議員にとっても IPU が国際政治への認識を有する貴重な場であったことを解明した。このほかエストゥールネル・コンスタンや宮岡恒次郎などの文書から、日本の IPU 外交を議会の外からサポートする国際主義者の存在があったことも明らかになった。これらの調査を継続することで、戦前の IPU 外交をより多角的、立体的に理解し、現在の議員外交に対する様々な示唆が得られると思われる。